

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞  
**感染対策の基礎知識と具体策**

～多剤耐性菌～

# この研修の目的

- ・ 多剤耐性菌の特徴を理解し、感染予防に努めることができるようになる。
- ・ 多剤耐性菌による感染症発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる。

# 多剤耐性菌とは

- ・ もともとはどこにでもいる毒性の弱い菌
- ・ 健康な人であれば問題ないが、抵抗力の弱い**高齢者**が感染すると**重症化**する可能性がある
- ・ 多くの**抗生物質**が効かず、使用できる薬が**限定**されてしまうため、他の細菌感染に比べて治療が難しい
- ・ 症状を和らげる**対症療法**のみとなる場合もある

# 多剤耐性菌の特徴

「多剤耐性」ではない状態では、身の回りに存在していたり、常在菌として持っている場合もある

⇒ **通常の菌**と比べ、稀にしか存在しない

つまり

日常生活で多剤耐性菌に感染する可能性は少ない

⇒ 多剤耐性菌が体内に入ったとしても、**健康な状態**であれば、症状もなく、やがて菌もいなくなる場合も多い

# 代表的な多剤耐性菌①

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)】

⇒ 黄色ブドウ球菌が多くの抗生物質に耐性を持った状態

○感染すると・・・

- ・ 腸炎、肺炎、敗血症などを起こす
- ・ 急な高熱、血圧低下、下痢、腹部の張り、意識障害、腎機能障害、肝機能障害などの症状が出る

日本で最も多い多剤耐性菌

# 代表的な多剤耐性菌②

## 【多剤耐性緑膿菌(MDRP)】

⇒ 緑膿菌が多くの抗生物質に耐性を持った状態

○感染すると・・・

- ・ 様々な部位で感染症を引き起こす
- ・ 尿路感染症や褥瘡などの傷への感染、呼吸器症状や消化器症状などが見られる

多剤耐性菌に感染するとどうなる？

## ①入居者・利用者への影響

- ・ 多剤耐性菌の感染力や病気を引き起こす力は、**耐性菌でない菌**と同じ
  - ⇒ 健康な状態であればすぐに病気を引き起こすわけではない
- ・ 身体の**抵抗力**が落ちている時には、多剤耐性菌による感染症が発症することがある
  - ⇒ 使用できる**薬**が限られるため、治療が困難

多剤耐性菌による感染症は、  
通常の細菌による感染症と比べ、**死亡率**が高い！

多剤耐性菌による感染症が発生するとどうなる？

## ②職員への影響

- ・ 身体の抵抗力が低下している高齢者には十分な注意が必要
  - ⇒ 徹底した感染対策が求められるため職員の**労働負担**が増える
- ・ 誰もが感染する可能性がある
  - ⇒ 職員自身も感染の可能性があるため、**精神的負担感**も発生し、組織の悪循環を生み出す要因にもなり得る

多剤耐性菌による感染症が発生するとどうなる？

### ③施設運営への影響

- ・ 新規入所の**受け入れ停止**が必要となり、**収益の減少**が考えられる
- ・ マスクや手袋などの予防具の購入により、**多額の出費**を伴う
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビでの報道等があると、施設に対する**信用**を失う  
⇒ 以降の施設運営に大きな影響を及ぼす

# 多剤耐性菌の感染経路と予防策

多剤耐性菌は**接触感染**で拡がる

⇒ **手指**を介して感染する頻度が高い

つまり

職員の手には菌が付着した状態で、入居者に触ると菌をうつしてしまう！

# 多剤耐性菌感染症発生時の対応

- ① 抵抗力が低下している人と接触しないようにする  
⇒ 原則として個室管理
- ② 介助時には手袋を着用する  
⇒ 同じ人の介助でも、汚染物に触れたら交換
- ③ 職員は手洗い、消毒(手指衛生)を徹底する
- ④ 可能な限り、個人専用の物品を使用する
- ⑤ 汚染物との接触が予想される時にはガウンを着用

接触感染対策と同時に、スタンダードプリコーション  
(標準予防策)を徹底する

多剤耐性菌による感染症の発生にいち早く気づくために

## 報告のポイント

多剤耐性菌は数多くの種類が存在し、感染時の症状にも様々なものがある

以下のような症状がある場合には、看護師に報告し、早期受診につなげる

【咳】【発熱】【頭痛】【嘔吐・吐気】【食欲低下】など

⇒ 日頃から利用者の健康状態を把握しておくとともに、普段の様子と違うと感じたらすぐに報告する

# 介護職の役割

- ・ 感染症対策の基本に努める
  - ① 施設内での**感染拡大**を防止する
    - ⇒ 環境整備、手指衛生の保持
  - ② 感染症の**発生リスク**を減らす
    - ⇒ 入居者の健康管理
- ・ 適切な**スタンダードプリコーション**(標準予防策)を実施していれば、保菌者への特別な対応は不要

正しい知識で感染対策を意識した  
サービス提供を心掛けましょう！

お疲れ様でした。

# 参考文献

①厚生労働省HP

「多剤耐性菌について」

<https://www.mhlw.go.jp/index.html> (2018年8月閲覧)

②NIID 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/> (2018年8月閲覧)

③一般社団法人日本感染症学会

<http://www.kansensho.or.jp/> (2018年 8月閲覧)

【教材作成】

社会福祉法人創誠会

特別養護老人ホーム あかり

施設長 渡邊尚太